

外部評価

令和5年度 有馬小学校 外部評価報告書

評価委員：中野耕佑（委員長）、宮崎弘次（副委員長）、矢川春文委員、深山健太郎委員
中多宏之委員、坂野泰士委員、森功次委員、宇多清二委員、吉岡輝元委員
鈴木一也委員、菊池理良委員

報告書作成者：菊池理良委員

評価時期 令和6年1月

1 重点目標の評価

【重点目標1について】

- ・「子どもたちに考えさせることを大切にしている」ことについて、子どもたちが何で？ どうして？ と、もっと調べてみたいと思うことが重要であり、問いがあれば学ぼうとする。大人は答えが頭の中に決まっていて、問いを立てられない人が多いので、「考えさせる力」を引き続き伸ばして行ってほしい。
- ・ICT機器を活用した学びについて、学校公開では、必ずタブレット端末を活用した授業を見せる等、学校の取組をきちんと伝える工夫をした結果、タブレット端末の活用の改善が図られたことがアンケートの数字からよく分かる。それでもアンケートの結果を見ると保護者からは、まだまだ物足りないようである。引き続き、アナログの良さも生かしつつ今後も保護者の意見を取り入れながら上手に活用して行ってほしい。

【重点目標2について】

- ・教育目標に「思いやりのある子」とあって、とてもいい目標だがどう育てているのかを保護者や地域にも分かりやすく、取り組んでいく必要がある。ICT機器を使ってばかりの学習では、思いやり等の感情は表せない。読書などの活動を充実させ、育てて行ってほしい。
- ・「児童は明るく生き生きと学校生活を送っている」の項目の評価が高い。学校全体が落ち着いていることで、学力向上や生活規範が身に付き、児童にとって充実した毎日に繋がっているのだと思う。

【重点目標3について】

- ・「学校は児童の健康・体力向上に努めている」の項目で保護者に比べて教員の達成率が低い。取組について課題があるのではないかと。学校としては、今年、教員の異動がたくさんあった中で、各々がやってきた学校に比べて取組が足りないという意味と捉えている。ただ、体力向上ばかりに力を入れすぎても他が疎かになるなど、大切なのは学校全体の学びのバランスだと考える。異動して1年目は、色々なことが見える。本校の取組が分からない分だけ、「これでいいの？」と思える。新鮮な目で、改善点を改善し、よりよい学校にしていく。
- ・体力テストの結果が課題であるが、以前より、公園等の遊具が減っているのも要因の一つではないか。昔は、手を使って遊ぶ遊具がたくさんあった。小学校の努力だけでは限界がある。

2 今後の改善に向けた意見

- ・学校と保護者の意識で乖離が見られるアンケート項目は、来年度の重点課題としていく。

3 その他の意見

- ・78周年、150周年記念関係の行事が一通り終わって、園児、児童にとって、とても思い出に残る1年間だったのではないかと。周年を通じて、学校と保護者が連携をとって進めることができた。
- ・今年度1年間、地域の方とも接する機会がとても多く、これからの幼稚園と小学校、PTAがこれから先に繋がる状況を作ることができた。

